

パラリンピックと放送に関する研究について(1) —平昌パラリンピック大会の放送に対する障がい 当事者の解釈・態度に関する調査報告—

中山健二郎

はじめに

本論考は、NHK 放送文化研究所・日本財団パラリンピックサポートセンター共同研究「パラリンピックと放送に関する研究」（以下「NHK 文研・パラサポ共同研究」と略す）の調査結果について報告を行うものである。当該研究プロジェクトは、パラリンピックの放送について、視聴者がどのような解釈・態度を示しているのか、また放送が視聴者にどのような影響を与え得るかについての傾向を把握するための基礎的研究を目指し、2017年12月より研究内容を構想し、2018年3月に開催された平昌2018パラリンピック冬季競技大会（以下「平昌パラ大会」と略す）の放送を対象として、調査を実施した。

パラリンピックと放送に関する基礎的なデータ収集を目的とした調査研究は、国内において過去にいくつか行われている。例えば、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（2016）が実施した調査¹⁾では、国内における2008年北京パラリンピック大会の地場波テレビ放送時間が56時間45分18秒であったことにに対し、2012年ロンドンパラリンピック大会は78時間14分15秒、2016年リオデジャネイロパラリンピック大会は234時間36分59秒と、大会ごとに飛躍的に放送時間が増加していることが示された。また、3大会通じて最も放送時間の長かったNHKにおいて、「NHK 教育」から「NHK 総合」に放送の割合が大きくシフトしたのは、パラリンピックをスポーツとして放送していく意図であると指摘されている。

こうした数量的なデータ蓄積に加え、放送の理念や内容について検討した研究も散見される。例えば、田中（2017）²⁾は、ノーマライゼーションの概念を下敷きに、障がい者スポーツの「見せ方」についての変遷と、英国の公共テレビ局であるチャンネル4におけるパラリンピック放送の理念を考察した。また、渡辺・中村（2017）³⁾は、2016年リオデジャネイロパラリンピック大会におけるNHKとチャンネル4の放送に関して、競技中継のパターンや出演者、ルール・クラス分け説明のあり方、選手の描き方などの放送様式についての比較検討を行っている。さらに、1964年東京パラリンピック大会の放送についてNHK アーカイブスが所蔵する映像を整理した崎田（2015）の論考⁴⁾など

もみられる。

上述した諸研究は、パラリンピック放送について、その放送時間や放送内容および制作の理念など、主に送り手側の様相について有用な基礎データや知見を蓄積してきたといえる。しかしその一方で、パラリンピック放送が、人々にどのように受け止められ、そのことが社会にどのような影響を与え得るかというような、受け手に焦点を当てた研究は少ない。例えば、2016年リオデジャネイロパラリンピック大会の放送に関してNHKに寄せられた反響についてまとめた清水（2017）の論考⁵⁾がみられるが、調査対象が電話やメールによる投稿者に限られるため、全体傾向を把握するためには、より広範な調査が必要とされよう。また、内閣府（2015）や東京都（2018）が実施した世論調査⁶⁾⁷⁾において、人びとのパラリンピックへの関心度や、観戦方法としてテレビ等を利用した人の割合などが示されているが、これらの調査からパラリンピックへの関心度や期待、およびその影響について、放送との因果関係を分析することはできない。

マス・メディア研究の領域においては、カルチュラル・スタディーズ派の諸研究によって、メディアによる情報伝達の構造を捉えるうえで、受け手が伝達された内容をどのように解釈するかを分析することの重要性が指摘されてきた。山口（2001）⁸⁾によれば、「メディアを介してやりとりされるメッセージは、まずその発話者によってエンコード（en-cord 記号化）されるのだが、それは受話者によって比較的自律的にデコード（de-cord 記号解読）されるのであり、そのメッセージの社会的な意味はエンコーディングとデコーディングの二つの工程を経て初めて創出される」という。この視点を勘案すれば、パラリンピック放送が創出する社会的な意味は、放送内容など送り手側に関する調査に、受け手の解釈や態度、放送の影響などの調査が加わって初めて、体系的な議論の土台が形成されるものといえる。

そこで、本研究では上述の通り、パラリンピック放送に対する視聴者の解釈・態度、および放送が視聴者に与える影響などに関する基礎的なデータ収集をすることを志向し、調査を実施した。当該調査は、これまで送り手側の状況に関する整理、分析が中心となっていたパラリンピック放送に関する基礎研究に、受け手の状況に関する新たな知見を加え、「どう報じられるか」のみでなく、「どう受け取られるか」という視点まで勘案した上で、パラリンピック放送のあり方を検討していくための、土台構築に寄与するものと位置づけられよう。なお、本論考は当該調査の結果について、日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会の視点からまとめたものである。

1. 調査の概要

(1) 調査目的および仮説

はじめに述べたように、本研究では、平昌パラ大会のテレビ視聴者を対象として、平昌パラ大会放送に対する解釈、態度および放送の影響など、放送に対する受け手の捉え方について基礎的な様相を明らかにすることを目的とした。その中でも、特に障がい当事者が放送をどのように捉えているかを明らかにすることで、パラリンピック放送に関する課題がクリアに導き出される可能性があるという観点から、障がい当事者による放送に対する解釈、態度および放送の影響を明らかにすることに重点を置いた。なお、本論考では当該調査のうち、主にNHK 文研が担当した「ユニバーサル放送」に関する項目を除いた結果について報告する。

分析にあたっては、ゼネラル・パートナーズ（2018）の調査⁹⁾により、パラリンピックによる障がい理解の促進は限定的であるという「あきらめの気持ち」を持った障がい者が多い傾向にあることが示されていることに鑑み、以下の2点を仮説と設定し、検証を行った。

- ① 障がい者は全体傾向として、パラリンピックの放送や、パラリンピアンを「他人事」としてみている可能性がある。
- ② 視聴積極度や視聴態度は、障がい種別やスポーツ実施状況など、個人の属性によって差異がみられる。

(2) 調査方法および対象

ジーエフケー・インサイト・ジャパンが所有するアンケートモニターより、18歳以上の障がい者1,375名（うち知的障がい者100名については家族による代理回答）、18歳未満の障がい児400名（家族による代理回答）、18歳以上の健常者500名を対象としたウェブアンケートにより、調査を実施した。なお、調査対象者において障がい者に該当する者は、何らかの障がいがあると回答した者のうち、「身体障害者手帳、療養手帳、精神障害者保健福祉手帳などの交付を受けている」者、「手帳の交付は受けていないが、障害福祉の支援サービス・給付を受けている」者、「手帳の交付は受けていないが、医療機関に通院し、治療をしている」者を該当者とした。また、健常者については、「自分自身にこれらの障害はない」と回答した者を該当者とした。

(3) 調査時期

本調査は、平昌パラ大会閉会式翌々日からの1週間、2018年3月20日（火）～26日（月）に実施した。

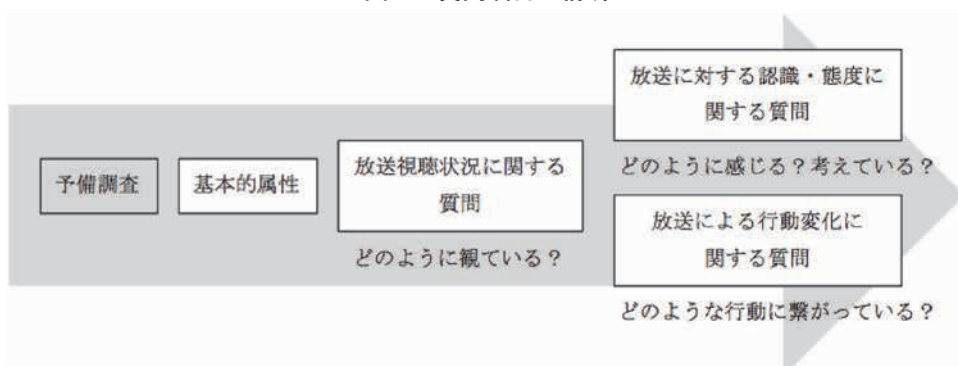
(4) 倫理的配慮

ジーエフケー・インサイト・ジャパンの社内規定に準じ、個人情報に関する適切な運用、問い合わせ窓口の設置等の配慮をして、調査を実施した（注1）。

(5) 質問項目の設計

質問項目については、図1で示したように、基本的属性および放送視聴状況に関する質問、および放送に対する認識・態度について、報道による変化についてなどの項目で構成されている（注2）。

図1. 質問項目の構成



2. 調査の結果

(1) 障がい種別割合、およびウエイトバック集計に関して

回答者のうち、障がい者における障がい種別の割合は、表1の通りである。また、今回のサンプル構成比率を内閣府（2016）の障がい種別統計データ¹⁰⁾と比較すると、表1のような乖離が見られた。サンプルは全国の障がい者比率と異なるので、意見の重みを調整するため、障がい種別、年代ごとのサンプル数にかけ合わせる係数である「ウエイトバック値」を算出し、結果を調整した。以降、表中の数値は「標本数」を除き、すべて%で示す。

表1. 障がい種別サンプル数と構成比

【障害別WB値】			割付 (有効回答数)	今回の調査の 構成比	国の統計に 基づく構成比	WB値	
障害者 (18歳以上)	身体障害	視覚障害	250	18.2%	2.8%	0.15570738	さらに細かく年代別 にWB算出 (下記参照)
		聴覚障害	150	10.9%	2.6%	0.23717018	
		肢体不自由	500	36.4%	16.6%	0.45784157	
		内部障害	100	7.3%	9.3%	1.27865663	
	知的障害	知的障害	175	12.7%	11.5%	0.90505768	
	精神障害	精神障害	200	14.5%	57.1%	3.92562500	
		発達障害					
Total			1375	100.0%	100.0%		
障害者 (18歳未満)	子ども	身体障害	55	13.8%	14.9%	1.081281244	
		知的障害	83	20.8%	31.0%	1.491914706	
		精神障害	262	65.5%	54.2%	0.827101569	
	Total			400	100.0%	100.0%	

【身体障害×年代別WB値】

		視覚障害		聴覚障害		障害別×年代の WB値
		今回の調査の構成 比	WB値	今回の調査の構成 比	WB値	
18～29歳	15.20	3.97	0.26141513	8.70	6.52	0.237170182
30代	20.40	7.95	0.3895980	20.00	13.04	0.154676206
40代	24.80	13.91	0.56077761	31.30	14.49	0.109816262
50代	22.00	30.46	1.38470801	22.00	17.39	0.18748631
60代	17.60	43.71	2.48344371	18.00	48.55	0.639710233

		肢体不自由		内部障害		障害別×年代の WB値
		今回の調査の構成 比	WB値	今回の調査の構成 比	WB値	
18～29歳	2.60	5.74	2.20893971	6.00	2.22	0.472621739
30代	8.20	7.09	0.86519446	14.00	4.03	0.36827668
40代	22.00	11.37	0.51699427	21.00	8.06	0.491035573
50代	35.40	28.83	0.81437370	32.00	29.23	1.168127594
60代	31.80	46.96	1.47671256	27.00	56.45	2.673415899

(2) サンプル特性

性別、年代の分布は、表2の通りであった。表中の数値(%)について、「障がい者全体」に比べて有意に高い数値を赤字で、低い数値を青字で記載する(有意水準5%)。尚、表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。年代の構成を障がい種別にみると、身体障がい者に関しては比較的年齢層が高く60～69

表2. 性別、年代

		SC1. 性別					SC2. 年代													
		Base=対象者全員				%	Base=対象者全員													%
		標本数 (人)	男性	女性	その他 /答え たくな い	17才 以下	18才 ～19 才	20才 ～24 才	25才 ～29 才	30才 ～34 才	35才 ～39 才	40才 ～44 才	45才 ～49 才	50才 ～54 才	55才 ～59 才	60才 ～64 才	65才 ～69 才	70才 以上		
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	65.4	34.2	0.4	-	0.9	6.1	9.1	7.7	11.7	11.8	14.2	12.3	8.1	8.2	10.0	-
		【身体障がい 計】	1000	72.2	27.6	0.3	-	0.1	2.1	2.4	3.5	3.3	4.8	6.1	14.3	13.9	21.9	27.7	-	
		視覚障がい	250	81.7	17.4	0.9	-	0.4	2.0	1.6	3.9	4.1	6.7	7.2	19.9	10.5	22.8	20.9	-	
		聴覚障がい	150	69.6	30.4	-	-	0.5	2.0	4.0	7.4	5.7	6.2	8.3	9.0	8.4	25.2	23.4	-	
		肢体不自由	500	66.0	33.7	0.3	-	-	2.7	3.1	3.3	3.8	5.0	6.4	14.5	14.3	23.0	23.9	-	
		内部障がい	100	80.9	19.1	-	-	-	1.1	1.1	2.6	1.4	3.5	4.6	13.7	15.5	18.8	37.6	-	
	代理回答	18歳未満	知的障がい	75	61.3	38.7	-	-	5.3	14.7	17.3	13.3	21.3	8.0	9.3	4.0	1.3	4.0	1.3	-
		精神障がい	100	61.0	39.0	-	-	1.0	4.0	7.0	7.0	16.0	22.0	22.0	10.0	2.0	2.0	-	-	
		発達障がい	100	63.0	36.0	1.0	-	1.0	11.0	17.0	12.0	24.0	16.0	16.0	2.0	1.0	-	-	-	
		18歳以上	【代理回答18歳未満 計】	400	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
健全者	18歳未満	身体障がい	55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		精神障がい	262	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		知的障がい	83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18歳以上	知的障がい	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		健康者	500	50.1	49.9	-	-	1.2	4.9	11.5	8.4	10.4	10.9	11.4	10.2	8.7	12.1	10.2	-	

才（計約50％）がボリュームゾーンであったことに対して、精神障がい者は45～54才（計44％）、知的障がい者および発達障がい者はさらに若い年代が多く、20才～39才（各計約65％）がボリュームゾーンであった。

また、外出頻度、ボランティア経験、職業に関しては、表3の通りであった。本人回答の身体障がい者に関して、ボランティアに興味がある割合が全体で38.4％であり、視覚・聴覚障がい者のボランティア経験、興味共に有意に高い割合を示すなど、他の障がい種別と比較してボランティアへの関心が高いという結果が示された。

表3. 外出頻度、支援・ボランティア経験、職業

		Q31. 外出頻度 Base=障がい者/障がい者家族 %					Q33. 支援・ボランティア経験 Base=対象者全員 %					Q36. 職業 Base=対象者全員 %				
		標本数 (人)	色々な場所 によく出 かけて行く 方だ	行ったこと のある場所、 家から近い 場所なら行く ことがある	あまり出 けない方だ		標本数 (人)	サポートやボ ランティアを したことがあ る	活動をした ことはない が、興味は ある	活動をした ことも興味 もない		勤めている (正社員 /契約社 員・アルバイ トなど（作 業所就労も 含む）)	自分で商売 や仕事をし ている（自 営業、自由 業など）	職業なし (主婦、学 生、無職)		
障がい者	本人回答	【本人回答 計】	1275	36.7	31.6	31.7	1275.0	15.1	29.7	55.2		46.8	10.6	42.6		
		【身体障がい 計】	1000	48.4	30.5	21.1	1000.0	15.4	38.4	46.2		36.2	14.3	49.5		
		視覚障がい	250	47.8	26.1	26.1	250.0	20.2	38.9	40.9		40.9	23.1	36.0		
		聴覚障がい	150	53.4	30.9	15.8	150.0	26.6	41.5	31.9		55.2	10.6	34.2		
		肢体不自由	500	45.9	28.9	25.1	500.0	13.8	38.4	47.8		34.1	13.0	52.9		
		内部障がい	100	51.5	34.5	14.0	100.0	13.8	37.4	48.8		33.1	15.0	51.9		
	代理回答	【身体障がい 計】	75	50.7	34.7	14.7	75.0	14.7	34.7	50.7		66.7	10.7	22.7		
知的障がい		100	28.0	29.0	43.0	100.0	11.0	28.0	61.0		41.0	10.0	49.0			
精神障がい		100	30.0	35.0	35.0	100.0	19.0	21.0	60.0		61.0	7.0	32.0			
【代碼回答18歳未満 計】		400	46.9	31.0	22.1	400.0	5.8	27.3	66.9		58.8	4.8	36.4			
身体障がい		55	60.0	20.0	20.0	55.0	1.8	32.7	65.5		49.1	7.3	43.6			
精神障がい		262	47.3	32.4	20.2	262.0	5.3	22.9	71.8		56.5	3.4	40.1			
健康者	本人回答	知的障がい	83	39.8	33.7	26.5	83.0	8.4	32.5	59.0		67.5	6.0	26.5		
		【本人回答 計】	100	38.0	32.0	30.0	100.0	12.0	15.0	73.0		53.0	12.0	35.0		
		身体障がい	-	-	-	-	500.0	8.6	25.4	66.1		52.3	9.4	38.3		
		精神障がい	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-		
		知的障がい	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-		
		【代理回答 計】	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-		
	代理回答	【身体障がい 計】	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-		

さらに障がいの重度、発症時期、介助の有無に関しては、表4～6の通りであった。本人回答の身体障がい者については「身体障害者手帳（1・2級）」（47.9％）、知的障

表4. 障がいの重度

		SC9_1. 障がいの重度（等級）_あなたご自身												%
		Base=自身が障害者手帳等の交付を受けている者（代理回答者自身に障がいがある場合を除く）												%
		標本数 (人)	身体障害 者手帳 (1・2 級)	身体障害 者手帳 (3・4 級)	身体障害 者手帳 (5～7 級)	療育手帳 (最重 度：A、 A1、1度な ど)	療育手帳 (重度： A、A2、2 度など)	療育手帳 (中度： B、B1、3 度など)	療育手帳 (軽度： B、B2、4 度など)	精神障害 者保健福 祉手帳 (1級)	精神障害 者保健福 祉手帳 (2級)	精神障害 者保健福 祉手帳 (3級)	等級は分 からない	
障がい者	本人回答	【本人回答 計】	962	19.1	13.9	6.5	0.3	0.2	1.4	3.7	2.3	25.4	23.1	4.2
		【身体障がい 計】	780	47.9	34.9	16.3	-	-	-	-	-	-	-	0.9
		視覚障がい	159	61.9	14.7	18.0	-	-	-	-	-	-	-	5.4
		聴覚障がい	95	47.4	28.3	23.0	-	-	-	-	-	-	-	1.2
		肢体不自由	456	37.9	39.0	22.3	-	-	-	-	-	-	-	0.8
		内部障がい	70	67.4	32.2	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	代理回答	知的障がい	64	-	-	-	4.7	3.1	20.3	54.7	-	-	-	17.2
		精神障がい	57	-	-	-	-	-	-	-	59.6	38.6	-	1.8
		発達障がい	61	-	-	-	-	-	-	-	8.2	36.1	47.5	8.2
		【代理回答18歳未満 計】	243	10.6	3.7	0.4	7.9	11.3	9.6	15.3	3.1	7.5	11.3	19.3
健康者	身体障がい	39	66.7	23.1	2.6	-	-	-	-	-	-	-	7.7	
	精神障がい	124	-	-	-	-	-	-	-	8.1	19.4	29.0	43.5	
	知的障がい	80	-	-	-	17.5	25.0	21.3	33.8	-	-	-	2.5	
	知的障がい	98	-	-	-	30.6	16.3	18.4	19.4	-	-	-	15.3	

表5. 発症時期

Q29. 障がいの発症時期				Base=障がい者／障がい者家族							%
				標本数 (人)	生まれたとき から	～9才	10～19歳	20～39歳	40～59歳	60歳以上	正確な時期 は不明
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	14.2	7.7	6.8	30.2	21.9	2.8	16.5
			【身体障がい 計】	1000	9.7	7.6	5.7	25.0	40.9	8.2	2.9
			視覚障がい	250	14.8	6.2	8.4	19.3	34.7	11.9	4.7
			聴覚障がい	150	20.3	13.1	8.6	18.5	27.6	5.4	6.4
			肢体不自由	500	10.7	9.8	6.9	24.2	41.1	4.4	2.8
			内部障がい	100	3.4	2.3	2.0	29.8	46.2	14.6	1.7
			知的障がい	75	28.0	28.0	10.7	13.3	4.0	-	16.0
			精神障がい	100	1.0	2.0	8.0	55.0	22.0	-	12.0
			発達障がい	100	30.0	10.0	6.0	14.0	4.0	-	36.0
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	400	58.2	29.4	2.2	-	-	-	10.1
			身体障がい	55	81.8	9.1	1.8	-	-	-	7.3
			精神障がい	262	48.5	37.4	1.5	-	-	-	12.6
			知的障がい	83	63.9	25.3	3.6	-	-	-	7.2
		18歳以上	知的障がい	100	71.0	14.0	2.0	2.0	-	2.0	9.0
	健常者			-	-	-	-	-	-	-	-

表6. 介助の有無

Q30. 日常生活で介助を必要としているか							Base=障がい者／障がい者家族			%			
				標本数 (人)	家の中での行動			買い物・娯楽などでの外出 (通勤・通院等の決まった外出 を除く)			テレビやインターネット等の情報 を見る・聞く・操作すること		
					全面的に 介助を受け ている	一部介助を 受けている	介助は受け ていない	全面的に 介助を受け ている	一部介助を 受けている	介助は受け ていない	全面的に 介助を受け ている	一部介助を 受けている	介助は受け ていない
障がい者	本人 回答	18歳 以上	【本人回答 計】	1275	3.3	8.9	87.8	4.0	13.0	83.0	2.5	4.1	93.4
			【身体障がい 計】	1000	5.1	13.8	81.2	7.2	18.1	74.7	2.9	4.8	92.3
			視覚障がい	250	7.0	12.6	80.4	6.6	26.2	67.1	4.1	14.1	81.8
			聴覚障がい	150	6.5	6.4	87.1	2.1	12.8	85.1	2.7	9.1	88.2
			肢体不自由	500	5.8	19.0	75.3	11.0	20.3	68.7	3.0	3.7	93.3
			内部障がい	100	2.9	6.9	90.3	2.0	13.1	84.9	2.6	2.7	94.7
			知的障がい	75	8.0	10.7	81.3	6.7	16.0	77.3	5.3	6.7	88.0
			精神障がい	100	-	5.0	95.0	1.0	5.0	94.0	-	2.0	98.0
			発達障がい	100	4.0	7.0	89.0	3.0	15.0	82.0	4.0	5.0	91.0
	代理 回答	18歳 未満	【代理回答18歳未満 計】	400	9.3	20.1	70.6	17.7	21.4	60.8	8.4	14.8	76.8
身体障がい			55	16.4	23.6	60.0	25.5	21.8	52.7	16.4	12.7	70.9	
精神障がい			262	3.8	13.4	82.8	6.5	19.1	74.4	3.4	7.3	89.3	
知的障がい			83	15.7	30.1	54.2	33.7	25.3	41.0	13.3	28.9	57.8	
18歳 以上		知的障がい	100	11.0	31.0	58.0	27.0	28.0	45.0	11.0	21.0	68.0	
	健常者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

がいは「療育手帳（軽度）」（54.7%）、精神障がいは「精神障害保健福祉手帳（2級）」（59.6%）がそれぞれ最も高い割合であった。また、発症時期に関しては、本人回答の身体障がいは特に高齢な時期の発症割合が高い（40～60才計約50%）ことが示された。

(3) スポーツとの関わり

回答者のスポーツ実施状況については、表7の通りであった。本人回答の知的障がい、精神障がい、発達障がい者については、もともとスポーツをしていない割合が相対的に高かった（それぞれ68.6%、61.8%、80.6%）ことに対し、身体障がい者については、障がいや環境要因によって、スポーツができなくなった人の割合が高いことが示された。

表7. スポーツ活動の状況

Q1. 自分自身のスポーツ活動の有無									
Base=対象者全員									
				%					
				標準数 (人)	日常的に 行っている	たまに行っ ている	ほとんど行っ ていない	まったく行っ ていない	わからない
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	16.5	23.4	20.9	39.3	-
			【身体障がい 計】	1000	16.4	18.3	26.1	39.3	-
			視覚障がい	250	22.0	26.4	21.5	30.0	-
			聴覚障がい	150	17.8	30.2	32.0	20.0	-
			肢体不自由	500	14.0	17.1	23.4	45.5	-
			内部障がい	100	18.5	14.7	30.6	36.3	-
			知的障がい	75	22.7	30.7	21.3	25.3	-
			精神障がい	100	16.0	29.0	15.0	40.0	-
			発達障がい	100	16.0	22.0	21.0	41.0	-
			代理回答	18歳未満	18歳以上	【代理回答18歳未満 計】	400	22.6	30.9
身体障がい	55	16.4				29.1	9.1	45.5	-
精神障がい	262	25.6				33.2	18.3	20.6	2.3
知的障がい	83	20.5				27.7	21.7	22.9	7.2
知的障がい	100	7.0				23.0	16.0	51.0	3.0
健常者				500	19.9	21.4	19.6	39.1	-

Q2. 以前のスポーツ経験									
Base=障がい者／障がい者家族 かつ スポーツをあまり行っていない者									
				%					
				標準数 (人)	以前から ずっとス ポーツは してい ない	(以前は やってい たが) 障 がいが 原因で スポーツ が出来な くなら なかった	(以前は やってい たが) ス ポーツ を続けら れてい る環境が なくなっ て出来な くなら なかった	その他	わからない
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	731.0	61.4	16.5	19.7	2.5	-
			【身体障がい 計】	579.0	43.7	36.4	17.9	2.0	-
			視覚障がい	102.0	45.1	24.2	30.3	0.3	-
			聴覚障がい	67.0	45.1	15.3	38.6	1.0	-
			肢体不自由	352.0	45.5	38.1	14.7	1.7	-
			内部障がい	58.0	39.6	40.8	16.4	3.1	-
			知的障がい	35.0	68.6	2.9	22.9	5.7	-
			精神障がい	55.0	61.8	9.1	25.5	3.6	-
			発達障がい	62.0	80.6	1.6	16.1	1.6	-
			代理回答	18歳未満	18歳以上	【代理回答18歳未満 計】	169.0	85.4	1.4
身体障がい	30.0	80.0				-	6.7	3.3	10.0
精神障がい	102.0	81.4				2.9	8.8	2.0	4.9
知的障がい	37.0	94.6				-	2.7	-	2.7
知的障がい	67.0	74.6				4.5	11.9	4.5	4.5
健常者				-	-	-	-	-	-

スポーツ活動の目的については、表8の通りであった。健康の維持・増進（本人回答の障がい者全体63.4%）や、気分転換・ストレスの解消（本人回答の障がい者全体43.7%）を目的としてスポーツ活動をする人の割合が多いことが示された。

表8. スポーツ活動の目的（複数回答可）

Q3. スポーツ活動の目的（複数回答可）											%				
Base=スポーツ実施者															
		標準数 （人）	健康維持・ 増進のため	気分転換・ ストレス解消 のため	趣味として	リハビリの一 環として	友人・家族 とのコミュニ ケーションとし て	スポーツの技 術や能力を 向上させる ため	地域・社会 参加の一環 として	仕事上のつ きあい	その他	わからない			
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	812	63.4	43.7	25.8	20.5	13.8	7.4	6.4	5.1	9.9	-	
			【身体障がい 計】	637	67.0	36.8	20.8	29.9	13.9	6.2	5.3	2.7	5.0	-	
			視覚障がい	194	66.9	42.8	23.9	19.4	19.7	10.8	12.1	6.8	2.8	-	
			聴覚障がい	114	61.7	47.0	28.9	18.5	16.5	11.8	10.1	7.1	5.4	-	
			肢体不自由	264	63.6	35.1	20.0	45.0	12.9	5.9	6.0	1.4	4.3	-	
			内部障がい	65	74.0	33.8	18.1	14.2	12.6	3.1	0.5	1.6	6.7	-	
			知的障がい	56	41.1	41.1	17.9	14.3	25.0	12.5	8.9	10.7	-	-	
			精神障がい	60	60.0	51.7	36.7	20.0	11.7	6.7	6.7	3.3	13.3	-	
			発達障がい	59	67.8	44.1	22.0	11.9	13.6	8.5	6.8	8.5	11.9	-	
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	290	39.3	28.9	14.2	16.0	21.4	19.0	5.2	0.7	18.2	7.8	
			身体障がい	30	30.0	13.3	13.3	26.7	16.7	13.3	6.7	3.3	33.3	10.0	
			精神障がい	202	35.6	28.2	16.3	12.4	22.8	22.8	5.0	0.5	20.3	7.9	
			知的障がい	58	50.0	36.2	10.3	19.0	20.7	13.8	5.2	-	8.6	6.9	
			18歳以上	知的障がい	46	65.2	41.3	21.7	10.9	15.2	13.0	2.2	-	4.3	8.7
			健常者	302	70.0	46.1	22.8	1.5	11.7	8.4	2.7	1.2	7.7	-	

また、スポーツ観戦の状況とその目的については、表9～10の通りであった。特に本人回答の知的障がい者については、外部との関わりが関係してスポーツを観戦している人が多いことが示された（家族や友人・知人に誘われたから25.0%）。

表9. スポーツ観戦状況（複数回答可）

Q4. スポーツ観戦の有無、競技/イベントの種類（複数回答可）														%	
Base=対象者全員															
				標本数 (人)	プロスポーツ (プロ野球、J リーグ、海外 リーグ、NFL、 NBA、プロテ ニスなど)	オリンピック・ パラリンピッ ク	各国代表選 手による国際 試合（サッ カーW杯、野 球のWBCな ど）	学生スポーツ (高校野 球、ラグビーな ど)	障がい者ス ポーツ（車い すバスケット ボール、車い すテニス、デフ リンピック、スベ シアルオリンピッ クス等）	アマチュアス ポーツ（地域 のマラソン大 会、学校や地 域のクラブ活 動など）	その他	スポーツ 観戦をし ていない	わから ない		
障がい者	本人回答	18歳 以上	【本人回答 計】	1275	45.7	43.0	28.2	19.8	8.9	8.5	0.7	38.3	-		
			【身体障がい 計】	1000	51.3	52.5	34.1	24.2	12.1	10.7	1.1	28.5	-		
			視覚障がい	250	52.1	46.9	32.1	25.6	9.1	8.7	2.1	28.6	-		
			聴覚障がい	150	49.1	42.8	26.3	13.9	16.2	8.9	3.6	30.0	-		
			肢体不自由	500	48.2	48.8	30.7	22.6	12.0	10.4	1.1	33.4	-		
			内部障がい	100	57.3	63.6	43.2	29.6	12.3	12.5	-	19.4	-		
			知的障がい	75	46.7	28.0	16.0	13.3	9.3	5.3	1.3	46.7	-		
			精神障がい	100	43.0	40.0	29.0	20.0	7.0	8.0	1.0	43.0	-		
			発達障がい	100	42.0	38.0	23.0	16.0	7.0	7.0	-	43.0	-		
	代理回答	18歳 未満	【代理回答18歳未満 計】	400	14.9	17.7	7.1	2.3	2.3	3.1	1.0	64.1	7.3		
			身体障がい	55	12.7	20.0	1.8	1.8	1.8	3.6	-	63.6	10.9		
			精神障がい	262	17.2	16.8	8.4	2.3	2.3	3.4	0.4	66.4	4.2		
			知的障がい	83	12.0	18.1	7.2	2.4	2.4	2.4	2.4	60.2	10.8		
			知的障がい	100	22.0	21.0	8.0	1.0	4.0	1.0	1.0	60.0	6.0		
			健康者	500	47.2	39.1	31.9	20.7	3.9	7.4	0.2	43.4	-		

表10. スポーツ観戦の目的（複数回答可）

Q5. スポーツ観戦の目的（複数回答可）																			
Base=スポーツ観戦者																			
				標本数 (人)	そのス ポーツを 見ること が楽しい から	応援して いる道 手・チー ムがいる から	気分転 換・スト レス解消 になるか ら	ニュース などで話 題になっ ていたか ら	アスリー トの姿を 見るこ とで励み になるか ら	家族や 周囲の 人との話 題にした いから	外に出か けるま けにな るから	家族や 友人・知 人に誘 われたか ら	自分もそ のスポー ツをして いるから	地域・社 会参加 になるか ら	上級者 の競技を 見て、技 術の参考 にした いから	その他	特にな い	わからない	%
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	863	53.6	38.7	34.2	30.8	19.1	14.5	10.5	9.6	8.2	6.8	5.4	1.8	6.7	-	
			【身体障がい 計】	709	58.0	37.9	35.4	26.6	20.1	14.5	6.8	6.6	8.7	4.6	4.5	0.6	6.3	-	
			視覚障がい	193	50.6	32.4	33.6	30.8	23.0	16.1	7.7	11.6	10.5	5.7	8.9	-	4.3	-	
			聴覚障がい	107	55.3	32.1	44.0	27.4	32.0	13.2	10.6	9.3	13.3	10.3	6.0	-	3.0	-	
			肢体不自由	334	59.9	35.2	31.7	25.2	17.0	11.9	5.4	5.8	6.9	3.0	2.9	0.4	8.5	-	
			内部障がい	75	57.7	44.9	39.4	27.3	21.2	18.1	7.8	5.8	9.7	5.4	5.3	1.1	4.2	-	
			知的障がい	40	40.0	35.0	45.0	25.0	30.0	20.0	20.0	25.0	7.5	12.5	5.0	2.5	7.5	-	
			精神障がい	57	59.6	45.6	40.4	29.8	19.3	10.5	14.0	10.5	8.8	5.3	5.3	3.5	7.0	-	
			発達障がい	57	43.9	33.3	24.6	38.6	15.8	17.5	10.5	10.5	7.0	10.5	7.0	1.8	7.0	-	
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	115	40.5	19.3	16.8	16.5	6.6	11.8	8.2	20.2	10.0	2.0	3.3	3.0	8.1	3.6	
健康者	18歳以上	身体障がい	14	21.4	7.1	14.3	14.3	7.1	-	-	21.4	7.1	-	-	7.1	14.3	-		
		精神障がい	77	46.8	26.0	10.4	16.9	7.8	14.3	7.8	19.5	11.7	1.3	1.3	1.3	6.5	6.5		
		知的障がい	24	37.5	12.5	29.2	16.7	4.2	12.5	12.5	20.8	8.3	4.2	8.3	-	8.3	-		
健康者	34	29.4	35.3	29.4	20.6	5.9	32.4	20.6	17.6	5.9	8.8	5.9	-	5.9	5.9	-			
健康者	281	58.7	37.9	30.8	22.1	17.4	11.4	5.3	8.0	8.6	5.3	3.5	0.3	8.4	-	-			

(4) テレビ視聴状況

日常生活におけるテレビの視聴状況については、表11の通りであった。

全体として、毎日テレビを見る人の割合は7割を超えているものの、本人回答の精神障がい者の18.0%がほとんどみていないとするなど、障がい種別によって傾向に若干差がみられた。

また、テレビでスポーツを視聴する理由については、表12の通りであった。教養やコミュニケーションなど、何かの手段としてスポーツを視聴する割合よりも、スポーツ視聴それ自体を楽しむことを目的として視聴する割合が多いことが示された。

表11. テレビ視聴状況

Q6. 日常のテレビ等の視聴				%							
Base=対象者全員											
				標本数 (人)	ほぼ毎日3時間 以上見ている	ほぼ毎日見るが3 時間未満	週に3~4日	週に1~2日	月に数回	ほとんど・まったく 見聞きしない	わからない
障がい者	本人回答	18歳 以上	【本人回答 計】	1275	42.2	34.1	5.9	4.1	2.8	10.9	-
			【身体障がい 計】	1000	53.5	30.8	3.8	4.0	0.9	7.0	-
			視覚障がい	250	37.1	43.1	3.2	3.4	0.9	12.4	-
			聴覚障がい	150	37.9	37.8	7.1	7.7	1.5	8.1	-
			肢体不自由	500	53.8	31.1	2.5	3.6	1.3	7.8	-
			内部障がい	100	62.1	24.7	5.6	3.8	-	3.8	-
			知的障がい	75	42.7	33.3	1.3	5.3	6.7	10.7	-
			精神障がい	100	40.0	33.0	4.0	1.0	4.0	18.0	-
			発達障がい	100	32.0	39.0	11.0	7.0	3.0	8.0	-
	代理回答	18歳 未満	【代理回答18歳未満 計】	400	30.0	54.0	2.5	3.0	0.7	7.8	2.1
			身体障がい	55	23.6	54.5	1.8	1.8	1.8	12.7	3.6
			精神障がい	262	31.7	56.5	2.7	2.3	0.8	5.3	0.8
			知的障がい	83	30.1	49.4	2.4	4.8	-	9.6	3.6
	18歳 以上		知的障がい	100	30.0	43.0	1.0	1.0	2.0	19.0	4.0
			健常者	500	38.5	42.1	3.8	2.8	1.3	11.5	-

表12. スポーツを視聴する理由（複数回答可）

Q9_2. テレビの視聴理由_スポーツを見る理由（複数回答可）																			％
Base=スポーツが好きなジャンル かつ 最も好きなジャンルでない者																			わからない
				標本数 (人)	ハラハラ・ ドキドキ できるから	見応え がある/ 感動で きるから	楽しい 気分にな れるから	元気、 勇気が湧 くから	気軽に 見られる から	周囲の 人と話 題にでき るから	家族と の会話 が弾む から	共感で きるから	知識や 情報を 得られる から	習慣と して	流行や 最新の 風潮を 知れる から	教養を 広げられ るから	その他	わからない	
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	394	35.7	31.1	27.0	26.1	23.7	20.9	16.9	14.5	14.2	8.9	5.6	5.5	1.4	-	
			【身体障がい 計】	330	37.1	29.0	23.5	28.0	23.6	16.2	13.6	12.3	16.7	10.0	3.1	7.2	0.7	-	
			視覚障がい	75	36.3	38.1	33.7	31.4	41.3	26.5	23.2	14.1	12.1	17.7	6.7	5.4	2.8	-	
			聴覚障がい	42	27.4	32.8	34.9	25.8	16.9	10.1	16.2	10.9	25.2	-	2.1	12.4	-	-	
			肢体不自由	173	33.5	37.5	29.8	26.9	28.7	13.3	13.0	12.8	17.1	14.4	5.0	7.3	1.0	-	
			内部障がい	40	43.8	15.0	10.9	28.9	14.0	18.8	11.8	11.6	15.7	4.2	-	6.5	-	-	
			知的障がい	15	33.3	33.3	46.7	26.7	13.3	26.7	6.7	13.3	13.3	6.7	-	6.7	-	-	
			精神障がい	34	38.2	32.4	38.2	20.6	20.6	20.6	17.6	17.6	11.8	5.9	2.9	2.9	2.9	-	
			発達障がい	15	26.7	33.3	6.7	33.3	33.3	33.3	26.7	13.3	13.3	13.3	20.0	6.7	-	-	
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	35	13.6	28.4	47.8	18.4	10.4	6.8	30.1	11.6	13.6	9.7	4.4	2.4	3.2	7.3	
身体障がい	2		-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-			
精神障がい	26		7.7	19.2	50.0	15.4	11.5	3.8	26.9	11.5	7.7	15.4	-	3.8	-	11.5			
知的障がい	7		28.6	42.9	42.9	28.6	-	14.3	42.9	14.3	28.6	-	14.3	-	-	-			
18歳以上		知的障がい	11	36.4	18.2	36.4	9.1	18.2	27.3	27.3	27.3	-	-	-	-	9.1	-		
		健常者	162	30.1	37.3	31.0	17.7	24.2	10.9	12.3	10.9	11.4	17.7	5.4	1.8	0.7	-		

(5) オリンピック、パラリンピックへの関心、および視聴状況

オリンピック、パラリンピックに対する関心度は、表13の通りであった。パラリンピックへの関心は、本人回答の障がい者全体（36.2%）の方が健常者（28.3%）よりも高く、特に身体障がい者に関しては、パラリンピックに対して相対的に関心度が高いことが示された。

表13. 平昌オリンピック、パラリンピックへの関心度

		Q11_1_関心度_オリンピック										Q11_2_関心度_パラリンピック									
		Base=対象者全員										Base=対象者全員									
		標本数 (人)	大変関 心がある	まあ関 心がある	どちら もいえない	あまり関 心がない	まったく 関心がない	■関 心あり 計	■どちら とも+ 関心なし 計	%			標本数 (人)	大変関 心がある	まあ関 心がある	どちら もいえない	あまり関 心がない	まったく 関心がない	■関 心あり 計	■どちら とも+ 関心なし 計	%
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	26.3	31.5	15.1	8.9	18.1	57.9	42.1		11.0	25.2	25.0	16.8	21.9	36.2	63.8		
		【身体障がい 計】	1000	29.9	37.8	14.3	8.5	9.5	67.7	32.3		11.6	32.9	22.4	19.9	13.3	44.5	55.5			
		視覚障がい	250	29.7	38.1	9.6	11.2	11.4	67.8	32.2		15.3	31.3	19.3	18.4	15.7	46.6	53.4			
		聴覚障がい	150	32.3	42.8	12.9	5.0	7.0	75.1	24.9		19.6	44.2	17.7	9.4	9.1	63.8	36.2			
		肢体不自由	500	25.8	36.0	15.3	11.8	11.2	61.7	38.3		11.0	31.5	23.3	18.5	15.7	42.5	57.5			
		内部障がい	100	36.8	39.4	14.3	2.9	6.6	76.3	23.7		9.4	32.7	22.9	25.7	9.3	42.1	57.9			
		知的障がい	75	30.7	21.3	21.3	4.0	22.7	52.0	48.0		18.7	25.3	25.3	6.7	24.0	44.0	56.0			
		精神障がい	100	25.0	29.0	18.0	10.0	18.0	54.0	46.0		7.0	21.0	28.0	21.0	23.0	28.0	72.0			
		発達障がい	100	23.0	29.0	12.0	9.0	27.0	52.0	48.0		13.0	21.0	25.0	11.0	30.0	34.0	66.0			
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	400	8.4	25.4	16.9	15.4	33.9	33.8	66.2		4.1	14.0	20.5	21.6	39.9	18.0	82.0		
18歳以上	身体障がい	55	3.6	32.7	14.5	18.2	30.9	36.4	63.6		3.6	20.0	12.7	25.5	38.2	23.6	76.4				
	精神障がい	262	8.4	24.0	16.8	18.7	32.1	32.4	67.6		3.1	14.1	19.8	23.3	39.7	17.2	82.8				
	知的障がい	83	10.8	24.1	18.1	8.4	38.6	34.9	65.1		6.0	10.8	25.3	16.9	41.0	16.9	83.1				
18歳以上	知的障がい	100	11.0	23.0	17.0	10.0	39.0	34.0	66.0		6.0	15.0	22.0	18.0	39.0	21.0	79.0				
	健常者	500	21.6	35.3	12.3	11.1	19.7	56.9	43.1		6.2	22.1	26.2	19.0	26.4	28.3	71.7				

オリンピック、パラリンピックそれぞれについて関心を持った時期については、表14の通りであった。オリンピックに関しては、大会の開催期間中に関心が高まる（本人回答の障がい者全体35.3%）様子がみられることに対して、パラリンピックについては、大会前やオリンピック期間中に関心が高まっており、パラリンピックの大会期間中に関心が高まる割合は低かった（本人回答の障がい者全体14.0%）ことが示された。

表14. 平昌オリンピック・パラリンピックに関心を持った時期

		Q12_1. 関心を持った時期_オリンピック								Q12_2. 関心を持った時期_パラリンピック							
		Base=オリンピックに関心がある者								Base=パラリンピックに関心がある者							
		標本数 (人)	オリンピック の大会 開始以 前	オリンピック の大会 期間中	オリンピック の大会 終了後～ パラリン ピックの開 始前	パラリン ピックの 大会期 間中	覚えてい ない	わからな い	%	標本数 (人)	オリンピック の大会 開始以 前	オリンピック の大会 期間中	オリンピック の大会 終了後～ パラリン ピックの開 始前	パラリン ピックの 大会期 間中	覚えてい ない	わからな い	%
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	804	49.6	35.3	4.6	3.6	6.8	-	573.0	45.7	22.8	9.1	14.0	8.4	-
			【身体障がい 計】	659	49.1	42.6	1.4	2.9	3.9	-	478.0	44.8	33.3	3.2	13.6	5.1	-
			視覚障がい	168	50.6	38.9	3.2	3.1	4.1	-	128.0	51.0	24.5	3.1	16.9	4.3	-
			聴覚障がい	109	49.4	33.7	2.6	7.0	7.3	-	92.0	47.3	25.6	5.0	14.7	7.3	-
			肢体不自由	309	49.0	41.7	1.2	2.5	5.6	-	213.0	46.2	29.4	3.5	14.4	6.6	-
			内部障がい	73	48.9	47.4	0.9	2.4	0.5	-	45.0	39.1	46.5	2.2	10.6	1.6	-
			知的障がい	39	38.5	35.9	7.7	7.7	10.3	-	33.0	30.3	36.4	15.2	12.1	6.1	-
			精神障がい	54	55.6	27.8	9.3	3.7	3.7	-	28.0	39.3	17.9	25.0	14.3	3.6	-
			発達障がい	52	46.2	32.7	3.8	3.8	13.5	-	34.0	55.9	8.8	2.9	14.7	17.6	-
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	134	26.8	50.1	3.3	5.5	6.1	8.2	72.0	21.1	36.6	3.8	23.9	6.8	7.8
			身体障がい	20	35.0	40.0	10.0	5.0	10.0	-	13.0	30.8	38.5	7.7	15.4	7.7	-
			精神障がい	85	25.9	56.5	1.2	4.7	2.4	9.4	45.0	13.3	44.4	4.4	24.4	2.2	11.1
			知的障がい	29	24.1	44.8	3.4	6.9	10.3	10.3	14.0	28.6	21.4	-	28.6	14.3	7.1
	18歳以上		知的障がい	34	35.3	50.0	2.9	-	5.9	5.9	21.0	38.1	38.1	4.8	14.3	4.8	-
			健常者	282	46.8	43.6	2.0	2.5	5.1	-	140.0	37.0	31.3	8.2	19.3	4.1	-

また、視聴に用いた機器・媒体、および視聴番組については、表15～16の通りであった。パラリンピックに関しては、主にテレビから情報が取得（本人回答の障がい者全体63.5%）されており、中でも「NHK 競技中継」が最もよく見られていた（本人回答の障がい者全体49.8%）。

表15. 利用した機器・媒体（複数回答可）

			Q13. 平昌大会に関して情報取得に利用した機器（見聞きしたもの）（複数回答可）										Q14. 平昌大会に関する放送視聴（パラリンピック）（複数回答可）									
			Base=対象者全員										Base=対象者全員									
			標準数 (人)	テレビ (録 画視 聴など も含む)	新聞	パコ ン	スマー トフォ ン	ラジ オ	パブリ ック ビュー イング	その他 見えて いない	わから ない	%	標準数 (人)	テレビ (録 画視 聴など も含む)	新聞	パコ ン	スマー トフォ ン	ラジ オ	パブリ ック ビュー イング	その他 見えて いない	わから ない	%
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	77.0	29.7	29.4	20.2	9.2	1.8	1.4	16.8	-	63.5	22.9	17.8	14.6	6.9	1.7	1.2	27.0	-
			【身体障がい 計】	1000	85.4	35.2	30.7	17.6	9.2	1.4	0.9	9.5	-	70.8	26.8	16.2	10.8	6.3	1.1	0.5	19.7	-
			視覚障がい	250	81.6	31.0	28.6	19.8	18.8	2.6	2.2	10.8	-	68.1	22.1	18.6	13.2	13.1	2.3	2.5	20.5	-
			聴覚障がい	150	86.2	49.7	38.6	27.7	9.6	0.8	2.3	7.1	-	70.1	39.3	18.8	20.9	7.8	-	0.7	10.9	-
			肢体不自由	500	83.1	32.6	29.2	17.9	7.5	0.7	0.5	11.7	-	71.2	26.0	18.5	12.3	4.6	0.2	0.4	20.8	-
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	100	90.5	37.3	32.0	13.4	9.1	2.2	0.9	5.8	-	71.0	26.3	10.6	4.5	6.8	2.6	-	19.9	-
			知的障がい	75	69.3	30.7	13.3	16.0	10.7	2.7	4.0	21.3	-	62.7	25.3	9.3	17.3	9.3	2.7	2.7	26.7	-
			精神障がい	100	73.0	26.0	34.0	19.0	9.0	1.0	1.0	18.0	-	62.0	18.0	19.0	19.0	7.0	1.0	1.0	30.0	-
			発達障がい	100	73.0	27.0	26.0	25.0	9.0	3.0	2.0	23.0	-	57.0	23.0	20.0	14.0	7.0	3.0	2.0	32.0	-
			健康者	500	75.9	32.2	24.1	16.0	5.7	0.2	0.2	21.0	-	62.0	23.5	14.9	9.5	2.6	-	0.2	32.4	-

表16. 視聴した番組（複数回答可）

			Q14_3. 平昌大会に関する放送視聴（パラリンピック）（見た番組）										（複数回答可）										%
			Base＝パラリンピックについて見聞きした者																				
			標準数 (人)	NHK:競 技中継	NHK:ハ イライ 番組 (パ ラリ ンピ ック イ ムを 含む)	民放: ニュース 情報 番組	NHK: ニュース 情報 番組	民放: 競 技中 継	開 会 式 中 継	閉 会 式 中 継	NHK:手 話や字 幕等も 取り入 れたハ イラ イ 番組	民放: そ の 他 開 演 中 継	NHK:そ の 他 開 演 中 継	その他	見た番 組は覚 えてい ない	どれも 見てい ない	わか ら な い						
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1004	49.8	33.0	29.2	28.0	19.3	10.4	8.7	7.6	6.6	6.1	0.7	8.3	6.7	-					
			【身体障がい 計】	811	54.1	37.2	32.8	32.9	19.9	8.7	7.1	9.2	7.9	7.6	0.5	3.5	3.7	-					
			視覚障がい	207	63.3	40.1	37.7	39.4	19.8	10.9	8.9	11.6	13.0	11.9	0.7	1.3	3.7	-					
			聴覚障がい	130	51.7	33.9	28.2	38.6	12.4	8.6	8.2	13.9	8.7	4.4	-	3.5	6.9	-					
			肢体不自由	398	50.8	34.1	36.7	34.0	22.2	10.3	6.2	6.9	5.6	6.6	0.9	3.8	4.8	-					
	代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	76	57.8	42.9	25.8	27.4	18.0	5.2	7.8	10.9	10.2	9.0	-	3.8	0.9	-					
			知的障がい	55	49.1	30.9	21.8	30.9	12.7	25.5	20.0	16.4	14.5	7.3	1.8	12.7	5.5	-					
			精神障がい	70	47.1	37.1	25.7	25.7	21.4	11.4	8.6	5.7	5.7	7.1	-	8.6	8.6	-					
			発達障がい	68	47.1	23.5	29.4	23.5	17.6	8.8	8.8	5.9	4.4	2.9	1.5	13.2	8.8	-					
			健康者	18歳以上	【代理回答18歳未満 計】	223	35.6	22.0	31.2	17.6	14.1	2.8	2.2	4.4	3.7	1.4	-	9.9	2.2	9.7			
身体障がい	31	38.7			22.6	38.7	12.9	9.7	-	-	3.2	6.5	-	-	9.7	-	3.2						
精神障がい	147	34.7			21.8	34.0	22.4	10.9	2.7	2.7	3.4	1.4	1.4	-	6.8	2.7	9.5						
知的障がい	45	35.6			22.2	22.2	11.1	22.2	4.4	2.2	6.7	6.7	2.2	-	15.6	2.2	13.3						
			知的障がい	46	45.9	32.6	21.7	28.3	21.7	13.0	10.9	8.7	6.5	4.3	-	6.5	2.2	6.5					
			健康者	335	43.9	27.2	38.9	31.5	18.4	9.5	7.1	7.2	5.7	6.8	0.9	8.4	6.3	-					

パラリンピック放送の視聴時間および積極度については、表17の通りであった。視覚障がい者および聴覚障がい者については、他の障がい種別と比較して、パラリンピックを積極的に視聴している傾向があることが示された。

表17. 視聴時間、積極度

		Q15. 視聴の積極度						Q16. 視聴時間							
		Base=パラリンピックテレビ放送視聴者 %						Base=パラリンピックテレビ放送視聴者 %							
		標本数 (人)	積極的に 見ていた	積極的に うほとは ないが、興 味のある ものは見て いた	たまに 見ている があった	興味はな く、ほとん ど見ていな かった	わから ない	ほぼ毎日 3時間以 上見てい た	ほぼ毎日 見るが3 時間未満	週に3~4 日	週に1~2 日	期間中数 回程度	ほとんど まったり見 聞か しな かった	わから ない	
障がい者	本人回答	【本人回答 計】	864	17.8	35.3	31.4	15.6	-	7.4	32.3	13.6	6.9	22.8	16.9	-
		【身体障がい 計】	698	18.4	41.3	31.1	9.2	-	10.6	37.0	13.2	6.0	23.3	9.9	-
		視覚障がい	174	21.5	44.9	29.7	3.9	-	9.4	46.3	10.3	8.3	20.0	5.7	-
		聴覚障がい	101	25.4	44.8	24.6	5.3	-	14.7	40.9	10.6	8.8	17.1	7.8	-
		肢体不自由	358	16.9	38.0	33.2	12.0	-	8.1	36.1	13.9	5.2	24.8	11.9	-
	代理回答	内部障がい	65	18.4	45.3	29.5	6.8	-	14.2	34.8	13.7	6.1	23.2	8.1	-
		知的障がい	47	23.4	38.3	27.7	10.6	-	10.6	40.4	8.5	6.4	21.3	12.8	-
		精神障がい	62	12.9	35.5	30.6	21.0	-	4.8	24.2	14.5	8.1	24.2	24.2	-
		発達障がい	57	21.1	26.3	33.3	19.3	-	5.3	33.3	14.0	7.0	21.1	19.3	-
		【代理回答18歳未満 計】	210	5.0	19.1	40.9	33.9	1.2	1.2	19.8	14.5	8.5	26.5	27.1	2.4
健全者	身体障がい	27	3.7	14.8	51.9	29.6	-	-	18.5	14.8	14.8	29.6	18.5	3.7	
	精神障がい	140	2.9	17.9	41.4	35.7	2.1	2.1	15.7	12.1	6.4	30.0	31.4	2.1	
	知的障がい	43	9.3	23.3	34.9	32.6	-	-	27.9	18.6	9.3	18.6	23.3	2.3	
	健康者	307	8.3	39.8	38.5	13.4	-	2.9	27.6	16.0	11.4	23.6	18.6	-	

パラリンピックを視聴した理由、視聴しなかった理由については、表18~19の通りであった。本人回答の身体障がい者に関しては、他の障がい種別と比べて特に自分の障がい対象競技であること（4.6%）が、好きなまたは注目している選手（9.3%）などの存在につながり、視聴の動機となっている様相が推察された（ただし、聴覚障がいはパラリンピック参加対象の障がい種ではない）。また、視聴しなかった理由に関しては、全体として認知度の低さ（「見たい競技がない」27.5%、「どんな選手がいるか知らない」25.7%）や、そもそもスポーツに関心がない（「普段からスポーツは観ない」24.4%）などの理由が多いことが示された。また、視聴しなかった人々の中で、健康者よりも本人回答の障がい者全体の方が「障がい者スポーツに興味がない」（12.5%）、「パラリンピック選手は、自分とは遠い存在だ」（5.9%）と回答した割合が高いことは示唆的な結果であろう。

表18. 平昌パラリンピックを視聴した理由（複数回答可）

		Q17. パラリンピック放送を視聴した理由（複数回答可）																					
		Base=（パラリンピックを週1日以上視聴した人）																				%	
標本数 （人）		日本人選手が活躍した	スノーボードが楽しかった	アスリートが活躍する姿が見たい	ニュースや記事で知っていた	ユニバースが面白いと思った	障がい者スポーツに興味がある	障がい者スポーツに興味がある	好きな選手がある	競技のルールを知りたい	2020年東京大会に興味がある	障がい者に対する意識が高まっているように感じる	ユニバーサルデザインに興味がある	好きな競技や注目している選手がいる	障がい者に関わるイベントや情報に興味がある	家族や近所の人に勧められた	周囲の人の勧めで見た	自分も同じように競技したい	自分の障がいについて知りたい	自分の障がいについて知りたい	%		
本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	575	40.2	32.7	29.4	29.3	22.6	19.4	19.1	18.0	14.8	12.6	12.1	10.4	8.2	7.6	6.1	5.1	3.4	2.6	2.4	2.3
		【身体障がい 計】	478	44.7	35.0	37.9	28.5	22.6	15.1	24.1	13.8	15.2	12.0	9.6	11.8	5.4	9.3	5.6	2.3	3.0	1.5	2.0	4.6
		視覚障がい	133	43.1	33.8	31.6	27.1	16.8	15.6	16.9	19.2	14.7	14.6	8.6	14.1	9.8	13.2	7.1	4.4	7.6	3.8	6.1	9.8
		聴覚障がい	76	40.5	35.8	35.9	29.9	35.3	23.0	23.8	7.7	11.4	18.9	13.7	10.4	12.1	9.8	12.9	7.0	6.8	1.8	7.4	9.7
		肢体不自由	223	44.7	32.9	33.8	34.1	21.6	16.3	26.4	17.7	16.3	8.2	9.2	13.7	3.3	9.0	3.5	2.0	1.0	0.6	1.1	4.1
		内部障がい	46	46.3	38.6	47.1	19.1	22.2	10.5	22.5	7.5	14.7	15.6	9.4	8.4	5.3	8.3	6.5	0.6	3.7	2.2	0.6	2.1
		知的障がい	31	29.0	38.7	16.1	25.8	35.5	19.4	19.4	32.3	22.6	6.5	16.1	12.9	6.5	9.7	16.1	9.7	6.5	12.9	6.5	
		精神障がい	32	37.5	34.4	34.4	31.3	15.6	15.6	15.6	12.5	15.6	9.4	3.1	-	9.4	3.1	3.1	3.1	-	-	-	-
		発達障がい	34	38.2	26.5	14.7	29.4	17.6	14.7	14.7	23.5	11.8	14.7	11.8	8.8	17.6	11.8	2.9	8.8	2.9	2.9	-	-
		代理回答	18歳未満	【代理回答18歳未満 計】	88	31.0	21.3	15.0	21.7	20.2	7.8	10.1	9.2	4.8	4.3	3.0	2.5	-	3.4	0.9	1.6	1.8	0.9
身体障がい	13	46.2		7.7	7.7	23.1	15.4	7.7	-	-	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
精神障がい	51	27.5		15.7	19.6	25.5	17.6	3.9	7.8	5.9	7.8	5.9	3.9	2.0	-	3.9	2.0	-	3.9	2.0	2.0	-	
知的障がい	24	29.2		33.3	12.5	16.7	25.0	12.5	16.7	16.7	-	4.2	-	4.2	-	4.2	-	4.2	-	-	-	4.2	
健康者	26	30.8		26.9	15.4	23.1	30.8	3.8	15.4	7.7	15.4	3.8	-	3.8	-	7.7	3.8	-	11.5	3.8	3.8	-	
代理回答	18歳以上	健康者	175	45.5	35.6	29.4	31.4	23.1	7.3	15.0	8.4	12.8	4.9	10.6	-	3.9	6.4	3.9	-	-	2.6	-	-

Q18. パラリンピック放送を視聴しなかった理由（複数回答可）

(6) パラリンピック放送の影響

パラリンピック放送が自身に与えた影響に関する回答は、表20の通りであった。特に本人回答の身体障がい者に関しては、前向きな気分の醸成（44.3%）やスポーツ観戦意欲の向上（34.5%）などの影響が、他の障がい者と比較して高い傾向にあることが示された。また、肢体不自由者に関しては、自身の境遇とアスリートとの間にギャップを感じている人が多い（30.2%）傾向にあることも示された。

Q19. パラリンピック放送が自身に与えた影響

*障がい者のみを対象とした質問 **健康者のみを対象とした質問

58

あった。全体傾向として、本人回答の身体障がい者については様々な観点から話題となったと回答した割合が有意に高くみられることに對し、精神障がい、発達障がい者については、「特に話していない」割合が7割程と高いことが示された。

表21. 周囲と話題になったか（複数回答可）

Q23. パラリンピックについて周囲と話題になったか（現状）（複数回答可）																								
Base=対象者全員																								
		標本数 (人)	日本人 選手の 活躍、 メダル	障がい 者ス ポーツ、 障がい 者アス リートに ついて	障がい 者ス ポーツ の種類	障がい 者に限 らず多 様な人 に対する 理解	インフ ラ面での バリアフ リー化 （公共 施設や 交通等 の整備 など）	特定の 競技や 選手・ チーム	障がい 者に関 する報 道の仕 方、社 会の受 け取り 方	障がい 者につ いての 印象の 変化	社会 や、健 常者に 求めた こと	障がい 者に理 解した こと	個人的 な障が いの状 態や困 難につ いて	情報面 でのバ リアフ リー化 （ユニ バーサ ル放送 の充実 など）	日常生 活での 障がい 者の接 し方	その他	特に話 してい ない	わか ない	%					
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	14.9	11.1	10.4	9.7	8.0	7.2	7.2	7.2	7.1	7.1	6.1	6.0	5.2	0.4	63.8	-				
			【身体障がい 計】	1000	22.7	12.5	12.2	12.9	8.9	9.8	7.0	7.2	7.0	7.1	7.8	7.3	6.5	0.2	57.0	-				
			視覚障がい	250	22.3	15.6	12.9	11.4	9.6	8.0	11.1	6.0	8.7	8.5	8.5	8.9	8.5	-	50.0	-				
			聴覚障がい	150	30.4	16.6	15.6	16.6	11.9	10.0	11.2	11.6	10.7	17.3	14.0	11.4	14.9	0.3	42.3	-				
			肢体不自由	500	18.6	13.1	12.0	10.1	9.8	6.3	7.6	6.1	5.5	6.3	7.8	6.9	3.9	0.3	61.7	-				
			内部障がい	100	27.9	9.4	11.5	17.3	6.4	16.6	3.7	8.2	8.1	5.3	5.9	6.2	8.1	-	54.7	-				
			知的障がい	75	22.7	20.0	16.0	14.7	13.3	10.7	16.0	9.3	9.3	8.0	13.3	9.3	10.7	-	46.7	-				
			精神障がい	100	13.0	8.0	11.0	9.0	3.0	7.0	4.0	5.0	7.0	7.0	5.0	3.0	3.0	-	71.0	-				
			発達障がい	100	7.0	11.0	7.0	6.0	11.0	4.0	9.0	9.0	7.0	7.0	4.0	7.0	5.0	1.0	67.0	-				
			【代理回答18歳未満 計】	400	11.8	4.5	4.8	3.4	1.8	2.5	3.9	3.4	1.8	4.4	2.5	0.9	2.2	0.6	69.2	6.3				
障がい者	代理回答	18歳未満	身体障がい	55	14.5	1.8	10.9	5.5	5.5	7.3	5.5	7.3	5.5	3.6	3.6	1.8	1.8	-	54.5	7.3				
			精神障がい	262	8.8	2.3	3.1	2.7	0.4	1.9	2.3	2.3	1.1	2.3	2.3	1.1	1.5	0.4	76.3	6.9				
			知的障がい	83	15.7	9.6	4.8	3.6	2.4	1.2	6.0	3.6	1.2	8.4	2.4	-	3.6	1.2	63.9	4.8				
			知的障がい	100	14.0	5.0	12.0	5.0	4.0	2.0	7.0	9.0	4.0	5.0	4.0	5.0	4.0	1.0	67.0	3.0				
			健康者	500	19.0	10.1	10.3	6.6	3.8	8.6	4.6	5.6	3.8	6.7	4.0	3.5	4.2	-	66.5	-				

(7) パラリンピック開催・放送への期待

東京2020パラリンピック競技大会が自身や社会に与える影響として期待できることに
関しての回答は、表22の通りであった。本人回答の身体障がい者に関しては、各項目共
に有意に期待値が高く、相対的にパラリンピックに対する期待値が高い傾向にあり、イ
ンフラ整備などのハード面のみでなく、障がい者を含む多様性理解（50.7%）や心理的
バリアフリー（47.7%）などのソフト面について期待を寄せている様相が示された。

表22. 東京パラリンピックの開催・放送が周囲・社会に与える影響（期待）

Q26. 今後、東京パラリンピックの開催・放送が自身・周囲・社会に与える影響															
Base=対象者全員															
			標本数 (人)	インフラ面でのバ リアフリー化（公 共施設や交通 等の整備など） の進展	障がい者スポー ツの浸透・発展	情報面でのバ リアフリー化（ユニ バーサル放送の 充実など）の進 展	マスメディアでの 障がい者に関する 情報量の増 加	障がい者に関する報道の仕 方、社会の受け 取り方の前進	障がい者だけでなく、多様な人 に対する理解	「心理面でのバ リアフリー化」の進 展	オリンピック・パ ラリンピックの同列 化	%			
■大まな影響があると思う・まあ影響はあると思う 計															
障がい者	本人回答	18歳以上	【本人回答 計】	1275	56.6	54.8	52.6	49.3	49.1	47.5	42.2	40.7			
			【身体障がい 計】	1000	61.5	58.7	56.1	53.2	53.2	50.7	47.7	42.2			
			視覚障がい	250	56.2	59.9	49.9	48.7	56.7	49.7	45.2	45.4			
			聴覚障がい	150	64.5	68.7	63.1	61.4	65.6	60.3	57.0	54.1			
			肢体不自由	500	62.0	57.6	53.0	50.2	51.4	48.9	45.4	39.9			
			内部障がい	100	61.6	57.4	61.6	57.6	52.0	51.6	50.0	42.0			
			知的障がい	75	54.7	57.3	54.7	52.0	58.7	50.7	44.0	50.7			
			精神障がい	100	59.0	52.0	50.0	46.0	49.0	47.0	40.0	36.0			
			発達障がい	100	49.0	53.0	51.0	48.0	43.0	44.0	38.0	42.0			
			【代理回答18歳未満 計】	400	37.9	36.5	33.3	32.6	36.5	29.9	23.9	24.3			
代理回答	18歳未満	身体障がい	55	30.9	38.2	27.3	36.4	38.2	29.1	20.0	18.2				
		精神障がい	262	37.4	32.1	34.7	31.7	32.1	28.6	21.4	23.3				
		知的障がい	83	42.2	43.4	33.7	32.5	43.4	32.5	30.1	28.9				
		知的障がい	100	27.0	38.0	26.0	29.0	32.0	23.0	16.0	19.0				
健康者			500	58.8	58.6	53.5	53.4	58.6	51.4	50.4	44.2				

(8) 視聴の積極性に関連する要因について

パラリンピックの放送に関して、「積極的に見ていた」「積極的というほどではないが、興味のあるものは見ていた」と回答した人を視聴積極層、「たまたまやっていたら見るがあった」「興味はなく、ほとんど見ていなかった」と回答した人を視聴非積極層、「テレビで見聞きしなかった」と回答した人を視聴なし層に分類し、3層とサンプル特性およびスポーツ活動の状況についてクロス集計を行ったところ、結果は表23～24の通りとなった（注3）。なお、以下の図表中の数値については、すべて割合を示しており、小数点以下を四捨五入した整数で記述している。また、これらの3層には家族回答は含んでいない。

表23. 視聴積極度とサンプル特性

	性別	年代	障害発症時期	介助有無	障害等級	外出頻度	就業率	障害者ボランティア
	男性 女性	29才以下 30-40代 50代以上	生まれたときから 0-9歳 10歳以上 不明	※全面的に + 一部介助を受けている 家の中での行動 買い物・通学などでの外出 情報を見る・聞く・操作すること	重度 中度 軽度 等級不明 手帳交付なし	※よく出かける方だ	就業率 ※勤めている ※自営業・自由業	※経験あり + 興味あり ※経験あり + 興味あり
視聴積極的	76	14 37 49	11 65 14	17 23 12	20 20 20 40	44	59	69
視聴非積極的	98	42 0 17 46 37	16 10 60 15	10 13 4	14 30 25 30	42	55	39
視聴なし	62	37 1 17 92 30	17 60 20	9 15 4	11 32 23 4 36	26	58	27

表24. 視聴積極度とスポーツ実施状況

	Q1.スポーツ実施状況				Q4.観戦しているスポーツ							Q5.観戦の目的				※障害者全体で10%以上			
	■ 日常的に+たまに行っている ■ ほとんど行っていない ■ まったく行っていない			■ 非実施理由 以前からずっとしていない 障害が原因 スポーツ環境がなく なつた			◆ スポーツ観戦率			プロスポーツ オリンピック・パラリン 代表選手国際試合 学生スポーツ 障害者スポーツ アマチュアスポーツ				そのスポーツを見ることから 楽しんでいる選手・チーム 応援している選手・チーム 気分転換・ストレス解消に なるから 一コマなどで話題になっ ていたら				その他、各属性で特徴的な項目 (障害者全体より高い/低いもの)	
視聴積極的	54	20	27	48	30	22	88	68	67	45	31	20	15	60	39	36	36	○ アスリートの姿を見ることで励みになるから (28%) ○ 外に出かけるきっかけになるから (13%)	
視聴非積極的	35	21	43	57	12	27	63	46	50	28	19	2	7	50	39	33	30	▲ アスリートの姿を見ることで励みになるから (9%) ▲ 外に出かけるきっかけになるから (6%)	
視聴なし	31	22	48	74	12	13	36	25	15	13	11	4	4	45	39	31	19		

: 50%以上

: 40%以上

■ : 50%以上 ■ : 40%以上

視聴積極層については、男性、50代以上が多いことが示された。障がいの程度に関し

では、視聴積極層には手帳交付なしの割合が多いものの、重度障がいの人も多く見られるなどの様相が見られた。加えて視聴積極層に関しては、積極的な行動のための介助を受けている割合が多い傾向にあり、また外出頻度やボランティアへの興味関心も高いことが示された。さらに、視聴積極層については、特にスポーツの実施、観戦意欲の高い人々であることが示唆された。

3. 考察および課題

本調査の結果、パラリンピックに対する解釈や視聴態度については、特に障がいの種別によって傾向が異なることが示唆された。特に、視覚障がい者、聴覚障がい者に関しては、パラリンピック視聴に対する好意的な解釈、態度が多くみられることに対して、知的障がい、精神障がい、発達障がい者に関しては、パラリンピック放送への関心度や期待が、相対的に低い様相が示されている。仮説①であった障がい当事者によるパラリンピックの他人事化という問題に関して、パラリンピックを見なかった人の中では、障がい者の方が健常者よりもパラリンピアンを遠い存在と感じているなど、一部仮説を支持する結果が得られた。しかしながら、興味がある人となない人で大きく結果が異なり、さらに、障がい種別においても異なる状況が示唆された。そのため、障がい者全体を一括りに論じるのではなく、関心の有無や障がいの種別ごとにその傾向を詳細に分析していく必要があるといえよう。また、仮説②であったパラリンピック視聴の積極度を規定する要因については、スポーツ活動の状況や、外出頻度、介助の有無、ボランティアへの関心など、他者との関わりや外部への志向性が関係していることが推察され、仮説が支持された。一言で「障がい」といえて、当然その状況や個別の文脈は様々に存在している。そのため、障がい当事者の観点から物事を捉える視点においては、「障がい」というただ一つのカテゴリで論じるのではなく、個別の文脈において、認識や行為にどのような傾向があり、その傾向はどのような条件に規定されているのかを捉えていくことが重要となろう。

本稿は、あくまでNHK 文研・パラサポ共同研究における結果の一次報告を目的としているため、個別の結果に関する詳細な分析や、因果関係の把握、結果からの論点抽出等については、別稿に委ねたい。パラリンピック放送の様相に関して、送り手の分析、および受け手の分析双方をすり合わせて、現状と課題を分析していくことは、今後の課題となろう。

注

- (1) 具体的には、以下の規定に準じている。
 - ① 『GfK 個人情報保護法』, https://www.gfk.com/fileadmin/user_upload/country_one_pager/JP/documents/ISJ_Privacy_ver2.pdf, (2018年5月25日)。
 - ② 『日本マーケティングリサーチ協会綱領・ガイドライン』, <http://www.jmra-net.or.jp/rule/prenciple/>, <http://www.jmra-net.or.jp/rule/guideline/>, (2018年5月25日)。
- (2) 質問紙の内容については、日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会のホームページ「パラリンピックと放送に関する研究」, <http://para.tokyo/2018/08/post-30.html> を参照。
- (3) 各層の割合は、視聴積極層34%, 視聴非積極層30%, 視聴なし層36%であった。

引用参考文献

- 1) 公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団, 2016, 『障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究報告書—テレビ放送, 選手認知度, 大学による支援に注目して—』, http://www.ymfs.jp/project/culture/survey/008/pdf/ymfs-report_20170331p_full.pdf (2018年6月21日), 73-89.
- 2) 田中暢子, 2017, 「そこにいる『あたりまえの存在』とスポーツがある社会—障害者がスポーツをする姿を見るという経験を通して—」, 『放送研究と調査 2017年9月号臨時増刊パラリンピック研究』, 56-70.
- 3) 渡辺誓司, 中村美子, 2017, 「2016年リオパラリンピック放送の日英比較調査—共生社会への変革と放送の役割—」, 『放送研究と調査 2017年9月号臨時増刊パラリンピック研究』, 32-54.
- 4) 崎田嘉寛, 2015, 「東京パラリンピック大会(1964)に関するテレビ放送—NHKでテレビ放送された映像に着目して—」, 『スポーツ史学研究』, 28, 71-83.
- 5) 清水裕子, 2017, 「リオデジャネイロパラリンピック視聴者の声—NHKに寄せられた反響の報告—」, 『放送研究と調査 2017年9月号臨時増刊パラリンピック研究』, 28-31.
- 6) 内閣府, 2015, 「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」, <https://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-tokyo/index.html>, (2018年6月25日).
- 7) 東京都, 2018, 「オリンピック・パラリンピック開催, 障害者スポーツに関する世論調査」, <http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/01/30/documents/01.pdf>, (2018年6月25日).
- 8) 山口誠, 2001, 「第一章 メディア (オーディエンス)」, 吉見俊哉編『知の教科書 カルチュラル・スタディーズ』, 講談社, 52-92.
- 9) 株式会社ゼネラルパートナーズ, 2018, 「オリンピック・パラリンピックへの意識調査」, http://www.gp-sri.jp/report/pdf/report_032.pdf, (2018年5月28日).
- 10) 内閣府, 2016, 「平成28年度版 障害白書」, <http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h28hakusho/zenbun/index-pdf.html>, (2018年5月30日).

Study of the Paralympics and Broadcasting (1) — Report on Interpretations and Attitudes of Persons with Disabilities —

Kenjiro NAKAYAMA

This study is a report on the research results of “Study of the Paralympics and Broadcasting,” a joint study by NHK Broadcasting Culture Research Institute and the Nippon Foundation Paralympic Support Center. Research in Japan concerning Paralympics broadcasting had mainly been that illuminating the situation on the side of the sender of the media, such as changes over time relating to broadcast times and treatment within programming. Meanwhile, there is not much research evident relating to the situation on the side of the receiver, such as viewer interpretations and attitudes held with respect to Paralympics broadcasting. Viewers do not necessarily interpret broadcasting in accordance with the sender’s intent, and it can be said that when viewed from the position of the public’s perspective of the Paralympics being created from amongst diverse and overlapping ‘interpretation,’ clarification of receiver interpretations and attitudes is important as a foundation in order to pursue the question of effects and functions of Paralympics broadcasting.

In the joint study mentioned above, NHK Broadcasting Culture Research Institute and the Nippon Foundation Paralympic Support Center conducted an online questionnaire survey targeting 1,375 persons with disabilities and 500 able-bodied persons 18 years and older. Two hypotheses were established for the design of the study: (1) Is there a possibility that persons with disabilities have a general tendency to view Paralympians and broadcasting about Paralympics as subjects that do not pertain to them? (2) Can a difference be observed in the enthusiasm and viewing attitude of persons with disabilities depending on the attributes of individual athletes such as the type of disability or status of sports participation?

The results of the research suggest that the interpretations and attitudes of persons with disabilities towards the broadcasting tend to be different depending on the type of disability. While persons with visual or hearing disabilities displayed

comparatively positive viewing attitudes in general, persons with mental or intellectual disabilities had a general tendency to display comparatively negative viewing attitudes. With respect to the hypothesis of whether there is a possibility that persons with disabilities have a general tendency to view Paralympians and broadcasting about the Paralympics as subjects that do not pertain to them, these results can be said to lead to the opinion that there is a need to discuss the situation taking into consideration contexts that differ according to each kind of disability rather than addressing general tendencies in a single bundle. Furthermore, the results also hinted at the possibility that viewing enthusiasm and viewing attitude are determined by not only the type of disability, but also by factors such as status of sports participation and connection with others.

Further study based on the results of this research into what kind of meaning Paralympics broadcasting has for society and using that as a foundation to advance debate on what form Paralympics broadcasting should take are tasks for further investigation.